

第 90 回岩手医科大学歯学会例会抄録

日時：令和 3 年 2 月 27 日（土）午後 1 時 00 分

会場：岩手県歯科医師会館 8020 プラザ（5 階大ホール）

特別講演

小児歯科・障がい者歯科診療における最近のトピックス

Recent topics in Pediatric and Special Care Dentistry

○森川 和政

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座
小児歯科学・障害者歯科学分野

本講演では「小児歯科・障がい者歯科診療における最近のトピックス」と題しまして以下についてご紹介させて頂きました。

1) 低ホスファターゼ症

低ホスファターゼ症は、血液中のアルカリフォスファターゼが低いことで生じる遺伝性疾患です。診断基準に骨の石灰化不全や乳歯早期脱落等があり、歯科医師にとって理解しておくべき全身疾患の一つであるといわれております。本疾患は難病指定疾患ですが、近年、酵素補充療法が可能となって生命予後が大大幅に改善されております。また、歯科医師の気づきによる医科への紹介により診断に至る症例も増えてきております。

2) Molar Incisor Hypomineralization (MIH)

MIH は第一大臼歯と切歯に限局して発症するエナメル質形成不全です。症状の重症度が左右非対称であることから、遺伝性エナメル質形成不全症やエナメル質形成不全とは異なるものであると考えられておりますが、発症原因は明らかになっておりません。

3) 口腔機能発達不全症

口腔機能発達不全症とは、「食べる機能」、「話す機能」、その他の機能が十分に発達していないか、正常に機能獲得ができておらず、明らかな摂食機能障害の原因疾患がなく、口腔機能の

定型発達において個人因子あるいは環境因子に専門的関与が必要な状態」のことをいいます。平成 30 年度に行われた診療報酬改定において、「口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応、生活の質に配慮した歯科医療の推進」として、ライフステージに応じた口腔機能管理の推進から、「口腔機能発達不全を認める小児の口腔機能管理の評価」が新設され、歯科医療保険の新病名として「口腔機能発達不全症」が収載されました。令和 2 年の保険改定では口腔機能発達不全症の診断目的の検査として、新たに小児口唇閉鎖力検査が新設されました。また、哺乳完了前の口腔機能発達不全の管理も行えるようになりました。

一般演題

1. 唾液腺腫瘍組織発生解明にむけて - 唾液腺腫瘍モデルマウスの創出 -

Toward elucidation of histogenesis of salivary gland tumor: Generation of mouse salivary gland tumor model

○衣斐 美歩, 羽金 雅登*, 佐藤 泰生,
入江 太朗

岩手医科大学病理学講座病態解析学分野, 歯学部 2 年*

目的：唾液腺腫瘍の組織発生は未だ未解明でありその詳細な解析のためには唾液腺腫瘍モデル動物の確立が不可欠である。従って本研究では唾液腺腫瘍の初期発生を明らかにするため唾液腺腫瘍モデルマウスを作製し作出された腫瘍の性状解析を行った。

材料・方法：はじめに、正常唾液腺組織の腺房細胞および導管上皮細胞特異的に PLAG1 を過剰発現するノックインマウスを作製した。この